

「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」ロジックモデル① (現状と課題)

現状把握・課題設定

- ・人生100年時代においては、誰もが**生涯にわたって、意欲をもってスキルアップ**を続け、労働生産性を高めることは、我が国の発展のためには重要
- ・大学においては、「職業実践力育成プログラム」(図1)や「履修証明プログラム」(図2)を拡充するなど、**社会人等が学び直せる環境の整備**に努めている。
- ・企業からは、従事者を大学に送り出すに当たり、**企業等の出身の講師などによる講義が期待**されている(図3)。

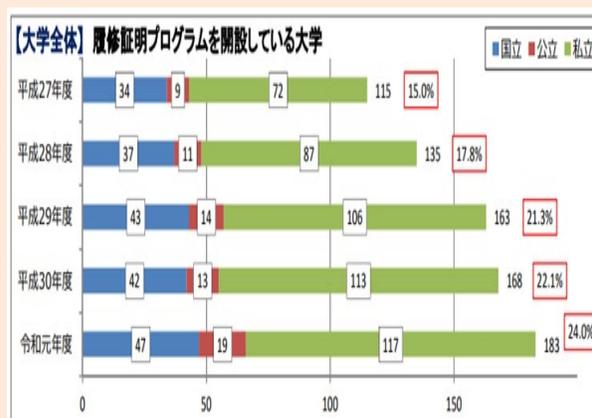
- ・大学においては、社会人対象の教育プログラムを提供する場合、**実践的な教育を行える教員の確保**や**採用した実務家教員の質の確保が課題**(図4)
- ・質の確保においては、大学において、**実務家教員を対象としたFDを実施している割合が5%弱**(図5)となっているため実務家教員の質・量の充実に関して、個々の大学の対応を待つだけでなく、**政策誘導的に実施することが重要**である。

【図1】「職業実践力育成プログラム」(BP) 認定課程数



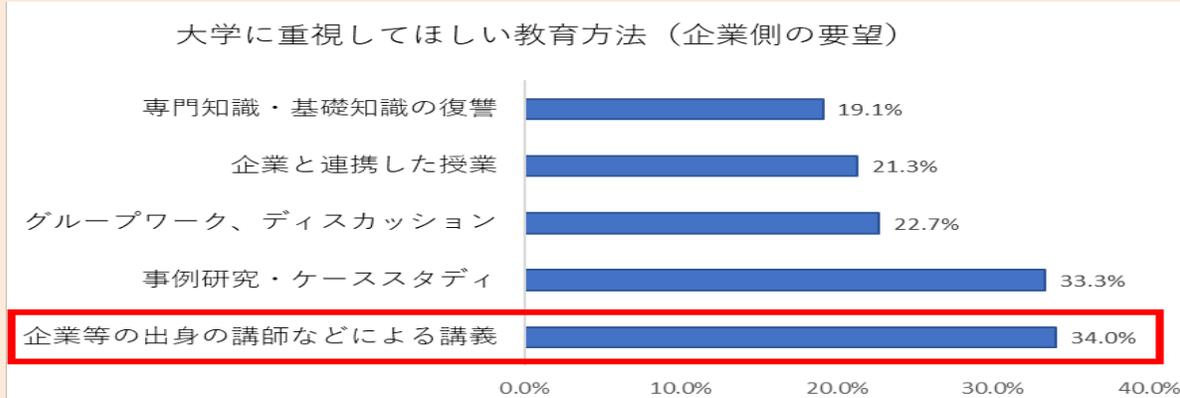
文部科学省作成

【図2】履修証明プログラムの開設状況



文部科学省作成

【図3】大学に重視してほしい教育方法(企業側の要望)



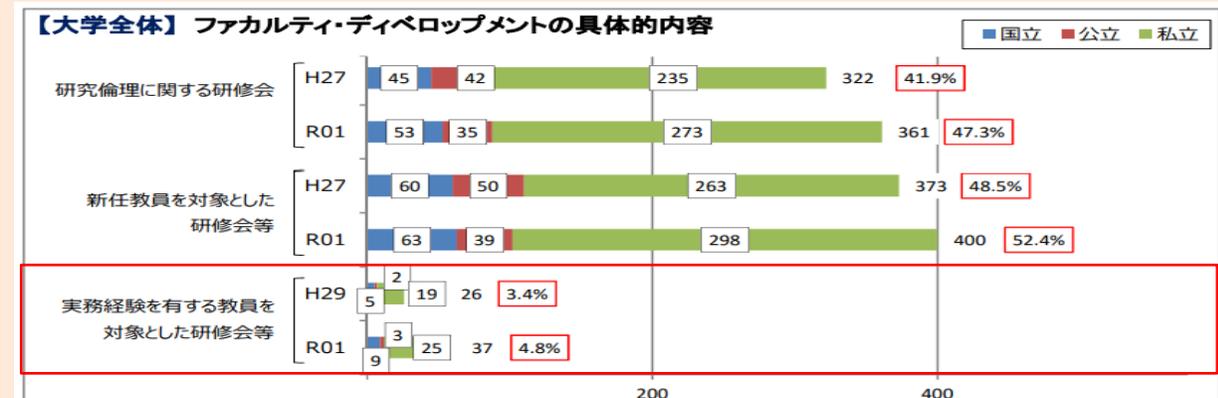
(出典) 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究 (平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省:先導的大学改革推進委託事業>)より作成

【図4】主に社会人を対象としたプログラムを提供していない学部・学科・研究科におけるプログラムを提供するための条件(複数回答)



(出典) 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究 (平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省:先導的大学改革推進委託事業>)より作成

【図5】ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況

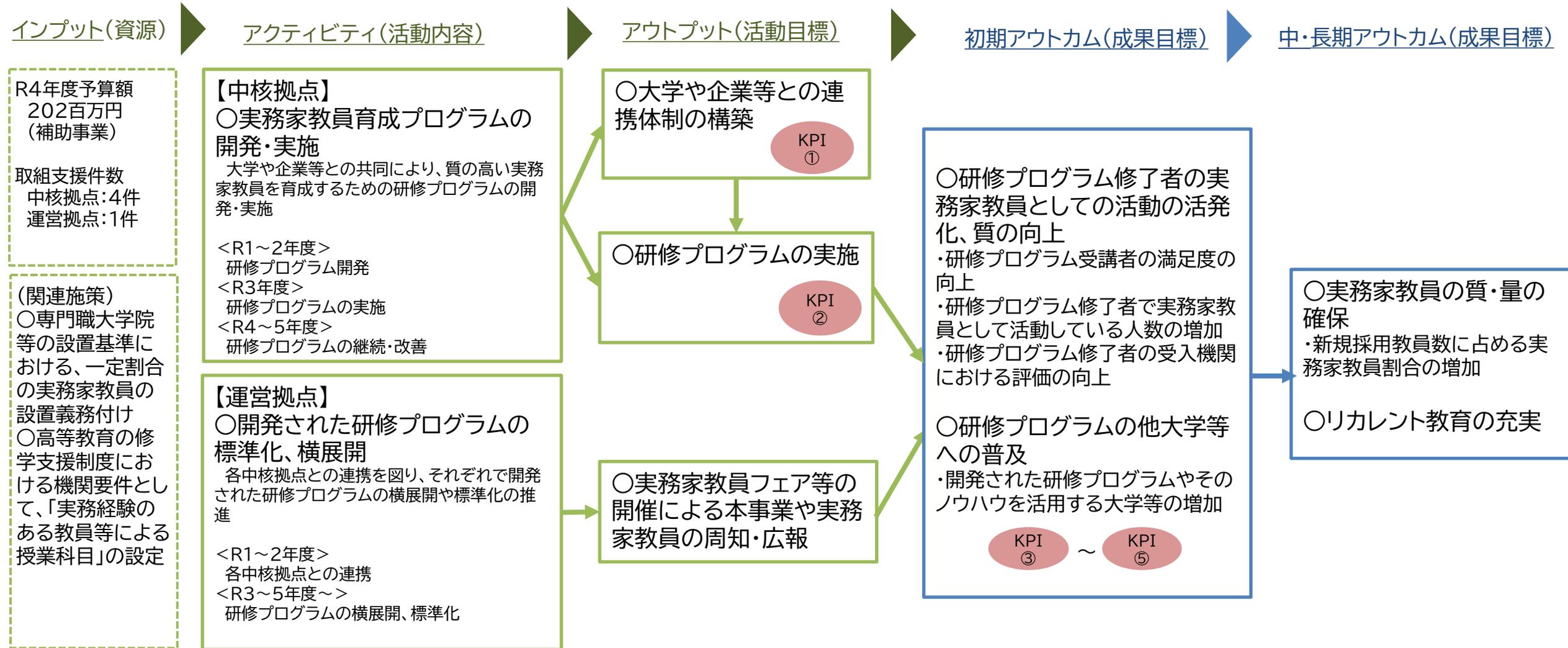


文部科学省作成

本事業の内容

産学共同で実務家教員育成プログラムを開発・実施することにより、実践的な教育を支える実務家教員を育成し、実務家教員の質・量の充実を図る。

「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」ロジックモデル② (具体的施策)



インパクト

- ・豊富な経験知と十分な教育手法を身に付けた実務家教員による、より実践的な産学共同教育の推進
- ・実務家教員の活躍が促進されることにより、アカデミアと社会を自由に行き来できる学びと社会の好循環を醸成
- ・リカレント教育を拡充させることにより、個々人の人生の再設計が可能となる社会を実現

測定指標と目標値

- KPI ① 事業における実施大学数及び連携企業数(単位:機関)
(R3年度:59(実績)⇒R4年度:63⇒R5年度:65)
- KPI ② プログラム修了者数(単位:人)
(R3年度:300(実績)⇒R4年度:262⇒R5年度:274)
- KPI ③ 研修プログラム受講者の満足度((目標値)R5年度:85%)
- KPI ④ 研修プログラム修了者で実務家教員として活動している人数
((目標値)R5年度:100人)
- KPI ⑤ 開発された研修プログラムやそのノウハウを活用する大学等